令和７年度　事業報告書
社会福祉法人茂原高師保育園　北区立赤羽台保育園

１．管理業務の実施状況

① 保育時間

保育標準時間　7：15～18：15　　保育短時間　　8：30～16：30

② 実施事業

延長保育　　18：16 から 20：15 の 2 時間　1 時間補食　2 時間夕食提供

休日保育　　年始 1 月 1 日～1 月 3 日を除く日曜祝日

子育て支援　　子育て・健康・発育相談　子育て情報の発信　親子わらべうたの会

③ 児童処遇

0 歳児…ひよこ組　1 歳児…うさぎ組・いちご組　2 歳児…ぱんだ組・たんぽぽ組

幼児…うみ・ゆき・はな・そら・つき・にじ

年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
定員	12	38	38	38	38	38	202
7 年 4 月	12	42	42	37	41	42	216
8 年 3 月	12	42	42	41	40	40	217

④ 職員体制（3／31 時点）※　名前下線は産休育休職員、() はパート職員

園長	1 名	奥戸
主任保育士	1 名	千脇
副主任	1 名	立花
保育士	51 名（13）	金子、西野、清水、庄司、前島、渡辺典、髙橋美、下地、山内、山室、名塚、高橋梨、渡邊美、葛城、勝連、冨田、太田、平田、中山、富塚、賀来、宮内、森田政、青木、五十嵐、田中愛、茂木、緑川、森田朋、白石、須江、田中理、森田碧、遠藤、平山、小田切、杉山、原島、(大橋)、(小熊)、(小林)、(丸山)、(小池)、(荻山)、(中内)、(高橋順)、(佐々木亜)、(林)、(齋藤正)、(大串)、(大久保)
保育補助	5 名（5）	（安東)、(石垣)、(長谷川裕)、(町田)、(渡辺眞)
栄養士	3 名	酒井、元木、原山
調理師	2 名	小山、門脇
調理補助	3 名（3）	（長谷川洋）（今野）（高橋礼）
看護師	2 名	大橋　岩田
事務員	2 名	松瀬、髙松

２．年間行事実施状況

4 月	進級式　入園式　全園児健診　親子ピクニック（以上児）
5 月	こどもの日の集い　懇談会(0~2 歳児)　どろんこ遊び（以上児）　新潟の米農家からオンラインで学ぶ田植え（5 歳児）　引き渡し訓練
6 月	水遊び　起震車訓練（4・5 歳児）　救命処置（職員）
7 月	水遊び　七夕　親子スポーツフェスティバル（以上児）給食試食会（3～5 歳児）個人

	面談(5 歳児)　引き渡し訓練
8 月	スクールコンサート(2～5 歳児)　防犯教室（４・５歳児）　防犯対策訓練（職員） 夏祭り（3～5 歳児）
9 月	新潟からオンラインで学ぶ稲刈り（5 歳児）　敬老会(3~5 歳児)　引き渡し訓練 合同研修会（職員･保護者）
10 月	親子芋掘り電車遠足(4・5 歳児)　全園児健診　歯科衛生指導(5 歳児)
11 月	焼き芋パーティー(4・5 歳児)　米農家板垣さん、篠原さんとの交流会（5 歳児）　尿検査(3~5 歳児)　引き渡し訓練
12 月	大きくなったねの会(3～5 歳児)　お楽しみ会　給食試食会(0~2 歳児)　赤羽台西小学校と交流（5 歳児）
1 月	初釜(5 歳児)　懇談会(0・1 歳児)　魚を知ろう会(3~5 歳児)
2 月	節分　チャレンジデーキャンプ(5 歳児)　懇談会(1・2 歳児)　お茶会(4 歳児)　個人面談(3・4 歳児)　赤西小学校校長先生講演会（保護者）　引き渡し訓練
3 月	ひなまつり会　生け花(5 歳児)　卒園式　引き渡し訓練　お別れ会

※　毎月：避難訓練　誕生日：誕生会

3．職員研修実績【外部研修】東社協　東京都・北区主催研修会　全国民間保育協議会
キャリアアップ研修会　私立保育園連絡協議会　北区発達障害支援学習会他

月	件数	参加者
4 月	0 件	
5 月	3 件	齋藤・田中愛・中山
6 月	4 件	緑川・太田・前島・山内
7 月	6 件	森田朋・前島・山内・千脇・原山・髙松
8 月	7 件	茂木・白石・森田碧・原山・門脇・奥戸
9 月	5 件	髙橋美・田中理・元木・小山・奥戸
10 月	6 件	髙橋美・田中理・元木・原山・奥戸・髙松
11 月	6 件	髙橋美・中山・松瀬・奥戸・大橋
12 月	1 件	名塚
1 月	8 件	渡邊美・千脇・大橋・緑川・葛城・元木・清水・名塚
2 月	1 件	髙松・千脇
3 月	2 件	葛城・平田・渡辺典・名塚・高橋美・緑川・前島・立花・太田・勝連・中山・千脇・奥戸
年２回		法人合同研修 新採用職員研修 パワーハラスメント研修 担当別職員研修

【園内会議・研修実績】

会議名	対象者	実施頻度
職員会議・給食会議	正職員	毎月１回
保育内容検討会議	各クラス担任	毎月１回
未満児会・以上児会	各クラス担任	毎月１回
リーダー会	各クラスリーダー	適宜
巡回指導による要支援児会議	各クラス担任	年 10 回
衛生委員会	衛生委員	毎月１回

園長研修　１・２年目職員研修	１・２年目職員	年２回
７・８・９年目職員研修	７・８・９年目職員	年２回
非常勤保育士・保育補助研修	非常勤保育士・保育補助	年４回
心肺蘇生、AED 救命救急研修　防火・防犯訓練	全職員	年１回
看護師による保健衛生研修	全職員	年 12 回
こどものとも社　オンライン研修	全職員	年間
法人テーマ別研修会議	全職員	年 12 回
職員・保護者合同研修	全職員	年１回

1.　運営費執行状況（決算書）

別紙「決算書 令和７年度（自）令和７年４月１日（至）令和８年３月 31 日」参照。

2.　評価および反省

（１）重点的に取り組んだこと

保育理念に基づき「人権を尊重する保育」の実現を目指し、担当制保育や異年齢保育を通して、子どもひとり一人の成長や発達、家庭の状況に応じた柔軟で丁寧な保育を行った。職員間で保育観や子どもの目指す姿を共有しながら取り組んだ結果、年度末の利用者アンケートでは、保育内容、行事に対する満足度が99%と高い評価を得た。また、子ども主体の行事づくりを進め、異年齢保育で培ってきた共同性を土台に、「自分の意見を伝える」「友達の意見を聞く」「共通の目標に向かって協力する」といった力を育むことを行事のねらいとして、保護者の協力のもと実践してきた。

従来は競技場のようであった園庭を、自然と共生する環境へと全面的に改修し、10 月より利用を開始した。植物を 100 種類植栽し、自然の生態系に近い環境を整備した。「とうきょうすくわくプログラム」への取り組みとして、「自然探究」を実践し、年長児を中心にダンゴムシをテーマとした観察・採集・飼育に取り組み、継続的な探究活動へと発展させた。こうした環境整備と実践の相乗効果により、園庭は子どもたちにとって不思議さや興味・関心を引き出す魅力的な場となり、主体的な学びと育ちを支える重要な基盤となっている。

本年度は、春の親子ピクニック、親子スポーツフェスティバル、親子電車遠足、火起こしから始める「私たちの SDGs 焼き芋パーティー」などを実施し、いずれの行事においても保護者参加率は 100%となった。行事を「子ども理解ワークショップ」と位置付け、保護者・職員が主体的に関わる参加型の取り組みとしたことで、協働的な関係が一層深まり、子ども・保護者・職員が共に学び、育ち合う機会となった。卒園を控えた年長児保護者とは、野外行事後に園生活を振り返る語らいの場を設けている。互いの気づきや喜びを共有しながら、保護者同士のつながりをさらに強めることができた。

また、鶴岡助産師を招き「包括的性教育～こころ・からだ・性教育～」講演会を保護者、地域、職員合同研修を行った。より人権を尊重した丁寧な保育への共通理解を深めた。3月には、子ども家庭支援センターより作業療法士を招き、要支援児への地域合同療育研修会を本園で開催した。「巧技台を使った運動遊び」について日本体育大学今井先生、オオニシ体育株式会社、星美学園短期大学打越先生を招いて、全職員で、保育実践を通した研修指導を受ける機会を得た。年間通して、室内運動の質、量を高めていく貴重な学びとなった。

（２）人財（人材）育成・チームマネジメント

個人研修計画表の作成や自己評価を通して、クラスおよび個人の振り返りを行った。園の良さや改善点について話し合い、共通認識を大切にしながら取り組むことで、新人・中堅・ベテランがそれぞれの役割を果たし、互いに学び合い、認め合う風土の醸成につながった。

一方で、産休・育休取得者が 10 月時点で 8 名となり、年度途中で担任の交替が生じる状況もあったが、クラス会議や歳児別会議、未満児会・以上児会に加え、パート保育士ミーティングや保育補助ミーティングなど、小規模での対話の機会を重視し、連携の強化を図った。これにより、方向性を共有し、協働的に学び合うチームづくりを進めることができた。これらの取り組みにより、退職者は 1 名（非常勤）にとどまった。今後も安定した運営を目指し、同僚性の醸成とチーム力の強化を継続していく。

（3）働き方改革・業務改善　安心と信頼が育つ職場へ

ICT の利用推進により、記録や会議の簡素化を進め、業務の効率化を図った。あわせて、職員のワークライフバランスに配慮し、固定勤務や短時間勤務、時間単位の有給休暇の取得など、多様な勤務形態を法人全体で推進し、働きやすい環境づくりと職員の定着につなげた。また、新採用者に対してはメンター制度を継続し、安心して相談し、働き続けられる体制を整えている。さらに、ハラスメント防止への意識向上に努め、安定した人間関係の構築を図った。

（4）安全・危機管理

防災安全対策リーダーを中心に、防災・防犯訓練を計画実施している。訓練後は全職員で振り返りを行い、改善点を共有し、次回へと活かしている。あわせて、利用する公園や道路の安全点検を毎月実施している。事業継続計画（BCP）マニュアルについても、毎年見直し・更新を行っている。また、幼児組と園長との語らいの場や日常の保育を通して、心・体・命の大切さや性、平和、合意について話し合う機会を設けている。誰もが尊い存在であることを伝え、インクルーシブ保育の実現を目指している。さらに、「予防」の視点を重視し、防犯教育・安全教育（命の大切さ）や、看護師による健康・衛生教育を実施している。

（5）地域連携と社会とのつながり　子どもたちの未来へ向けた連携へ

子育て支援の会では、親子わらべうた、見学会、試食会、園庭開放日を実施し、地域に開かれた園づくりを進めている。また、小中学校の職場体験や養成校の実習生の受け入れ、年長児による習字や手仕事（針を使った雑巾縫い）では、地域ボランティアの協力を得ている。さらに、小学生ボランティアは年間 150 人の参加があり、子どもたちの居場所づくりの観点から、体験の機会や自己有能感の向上、自信の回復につながったとの声が多く寄せられている。今後も地域の皆様を招き、多世代が関わる多様な交流を大切にしながら、地域の児童福祉を支える場として本取り組みを継続していきたい。

小学校接続の推進では、赤羽台西小学校の村松校長をお招きし、「1 年生の生活と学び」についてご講演いただいた。近隣園の保護者を含め 80 名が参加し、就学への安心につながった。今後も近隣園と共に地域全体で連携し推進していきたい。赤羽台西小学校の学校運営協議会に参加し、学校運営での情報共有を行った。

本年度は、保育理念に基づく「人権を尊重する保育」の実現に向け、保育実践、職員育成、働き方改革、安全管理、地域連携の各側面から総合的に取り組んできた。子ども・保護者・職員が共に学び合い、育ち合う関係性を大切にしながら、一人ひとりの育ちを支える保育を積み重ねることができたことは、本園の大きな成果である。

加えて、園庭の大規模な改修を行い、自然と触れ合える環境を整備したことについては、保護者からも高い評価と賛同を得た。今後も植栽等を通して「育てていく園庭」として、保護者を巻き込みながら協働を推進していく。

一方で、社会や家庭環境の変化に伴い、保育に求められる役割はますます多様化している。こうした状況を踏まえ、今後も職員間の対話と協働を基盤に、専門性の向上とチーム力の強化を図りながら、法人理念である子ども一人ひとりの最善の利益を第一に据えた保育の質の向上に努めていく。あわせて、地域社会との連携を一層深め、子どもたちの豊かな育ちを支える児童福祉の基地づくりを推進していく。